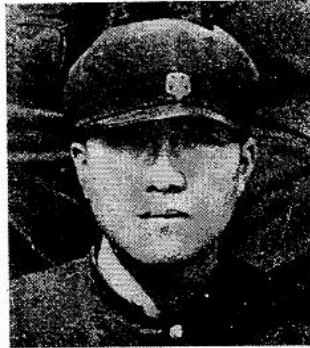


反戦平和の詩人

横村浩



関西中学時代の横村浩

一九三二（昭和六）年、「満州事変」で国際法を無視した中国侵略戦争を開始した日本は、国内でも軍人の横暴を許す暗黒政治を出現させました。一九三二年大養首相が暗殺され、その年の秋には関東軍の実質支配する「満州国」が樹立されました。この時代の風潮の本質、天皇制国家の侵

略性をいち早く見抜いた吉田豊道は十九歳の時、横村浩のペンネームを使って反戦詩「生ける銃架」を「大衆の友」創刊号に発表、続いて長詩「間島パルチザンの歌」を「プロレタリア文学」臨時増刊号に発表し話題を呼びました。

現在、高知市の城西公園にはその詩の冒頭部分を刻んだ詩碑が立っています。

間島パルチザンの歌

思ひ出はおれを故郷へ運ぶ
白頭の嶺を越え、落葉松の林を越え
蘆の根の黒く凍る沼のかなた
緒ちやけた地肌くまに黴かびずんだ小舎こやの続くところ

高麗雉子が谷に啼く威鏡の村よ

雪解けの小径を踏んでチゲを負い、枯葉を集めに姉と登った裏山の楢林よ

山番に追はれて石ころ道を駆け下りるふたりの肩に

背負よ縄なわはいかにきびしく食い入ったか
ひびわれたふたりの足に

吹く風はいかに血ちごりを凍こわせたか

横村浩ら共産青年同盟の仲間が高知市朝倉の歩兵第四十四連隊の兵営に「兵士よ敵をまちがえるな」と書いた反戦ビラをまいたり決死の反戦活動を展開しました。当時反戦活動など国家の方針に逆う活動をすることは、国体を否定する者として厳しく追求され、治安維持法違反の名で片端から逮捕されました。

横村浩も一九三二年四月二十一日、自宅のあったひろめ屋敷で逮捕され、高岡署につれていかれ、ここでひどい拷問をうけ、起訴され高知刑務所に入所しました。しかし、この時横村の体は監獄病といわれた拘禁性操うつ症、食道狭窄症にかかり重症におちいっていました。

この時代が現在の私たちから見ていかに厳しい時代であったか想像を絶するものがありました。有名は作家小林多喜二が一九三三年東京築地署で虐殺され、高知県安芸出身の労働運動指導者石建虎兎とらも、弱冠十九歳の筒井泉吉も高知市水上署で、須崎出身の黒原善太郎は大篠署で虐殺されました。

このようなあらゆる自由を奪った暗黒の時代に横村浩は非転向を貫き志を守り通し

たことは、私たち戦争のない社会をめざす者にとつては光の源泉であり続けています。

榎村浩は三年余の獄中生活を終え出所しましたが、一九三八年九月三日、わずか二六歳で亡くなりました。

私たちは没後二十五周年を期して、彼の詩集を出版したり、生涯を映画化したり、墓地を修復したりしてきました。

榎村浩の会は研究誌「ダツタン海峽」を八号まで発行。

一九八九年四月、高知刑務所跡地にできた城西公園に詩碑建立

榎村浩の墓の隣に母丑恵の墓石建立

二〇〇三年九月没後六十五周年を記念して、墓地の修復、道標など設置

榎村浩（本名吉田豊道）略年譜

一九一二年六月一日・高知市廿代町に生まれる。

一九二三年・土佐中学校本科一年に、小学四年終了で入学。

一九二八年・海南中学で軍事教練反対の運

動を組織する。

一九三一年・日本プロレタリア作家同盟高知支部結成に参加。十二月、日本共産青年同盟に加盟。

一九三二年・「生ける銃架」「間島バルチザンの歌」発表。四月検挙され、非転向のため三年の刑に処せられる。

一九三五年・六月高知刑務所より出獄
一九三六年・十二月「人民戦線」事件で検挙される。

一九三七年・一月拷問のため重症釈放
一九三八年九月三日病院にて死亡

（榎村浩に関する文献）

1. 榎村浩全集 三〇〇〇円
2. 日本詩歌史 二八〇〇円
3. 榎村浩詩集 一八〇〇円
4. 暗黒の中の光芒 六〇〇円
5. ひとつとの出会い 一五〇〇円
6. 「ダツタン海峽」No.5～8号 各八〇〇円
7. 「人間の骨」（土佐文雄著）絶版
映画「人間の骨」のビデオ化されたものあり

吉田丑恵さん墓碑建立（一九九二年五月三十一日）「墓前祭」での吉田の旧友としての挨拶

富永三雄

皆さん、本日榎村のご母堂丑恵さんの墓碑が出来上がり、墓前祭を行うことになりました。ご参集をいただき心からお礼を申し上げます。

丑恵さんの死後四十年を経てやっと皆様のご協力によりまして、榎村の墓碑と並んで彼女が安らかに眠れるようになりました。

榎村の墓碑と詩碑ができたのは一九七〇年代でありますから、丑恵さんは約二十年の間、一人息子のそばで、大きな石ころのみの墓の下でさみしく眠っていました。

戦前戦中二十六年の間母親としての豊道（とよみち）君への「愛情と献身」を考えましたとき、本当にすまなかったとお詫びをせねばなりません。

今日の墓碑完成によりまして、長年の念願を實現し、彼女への責任を果たすことが

できました。

吉田は、彼女が三十五歳の時生まれた一人息子です。六歳の時から彼は母の手だけで育てられました。

海南中学時代、私も度々お会いしたことがあります。本場に立派な、思慮分別の深い賢明な、やさしいお母さんでした。彼が岡山の開西（かんせい）中学に転校をきめたとき、「これ以上母を悲しませたくない」と目に涙を浮かべて微笑した姿が未だに消えています。



第六小学校時代の榎村浩と母丑恵

彼は感想文の最後で、「プロレタリアートはかつてないファシズムの嵐の中で、未曾有の彎曲的な抵抗線を描いて健闘している」と書いていますが、この言葉が、母丑恵さんにも当てはまります。

彼女は彼の最高の理解者でした。一人息子に捧げた生命、弾圧と迫害の嵐に耐えぬいた苦しみを、彼女は母として彼とわかちあっているからであります。

榎村の詩、「黄昏の女囚の歌」に、「囚塀（へい）の築地を君すぎて、苦き河辺の春を呼び、返らぬ花のひとつとを、接吻しつ投げしとき」の一節があります。

君とはお母さんを連想した言葉ではないでしょうか？ たった一人の肉親の母への限りない慕情を書いたものだと思いません。

丑恵さんは獄中の彼を案じて、高い塀を仰いで、風の日も雨の夜も、立ちすくんだと言われています。

この親子の情愛の深さ、相まみえることのできない姿は涙なくしては回想できません。戦前戦中の「悲しい非人間的な歴史」の証であります。

最後に丑恵さんにつきぎの言葉を捧げたい

と思います。

吉田のお母さん、この新しい墓碑は、吉田のと合わせて二つ。戦前、戦中の日本の真実の歴史の語り部です。あなたは戦後を生きた私たちにとって、人民の母とも言える存在であります。

豊道君は戦後正しく評価され、彼の詩作は私たちに最高の感動を与え、彼の詩魂は未だに生きています。彼の死後五十四年、お母さんが亡くなられて四十年。あなたたち二人の回想は、いつまでも消えることはありません。

お母さんと吉田は、何時までも何かを私たちに話しかけていて、「人間の骨」です。「痛恨」の二字を添えて、あなたの献身の崇高な犠牲を讃え、新しい墓碑のもとで、静かに安らかに眠って下さいませよう心からご冥福をお祈りいたします。吉田の旧友からのご挨拶といたします。

（註）丑恵さんの旧姓は野村、明治十年六月四日生まれ。現在のハリマヤ町で生まれています。看護婦、助産婦として生計を立て、昭和六年吉田が岡山の開西中学を卒業するまでは、悪戦苦闘の生活でした。

一九三二年、彼が捕られてからは、孤独の彼を励ましつづけました。彼が一九三五年六月出獄してからは、必死の努力で看護に当たりました。

一九三七年、吉田を土佐脳病院に入院させて、村添婦の資格だけで頑張り抜きました。一九三八年九月三日横村の死後は、ただ一人だけの孤独の生活でして、彼の残した「アジアチッシュエイデオロギー」の原稿を彼の形見として肌身から離しませんでした。それも空襲で失いました。

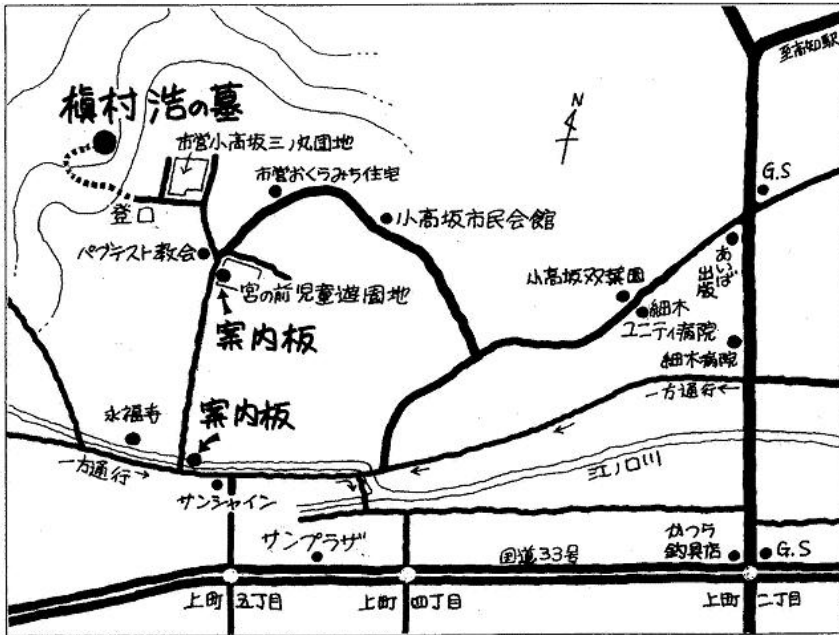
養老院清和園で老後を過ごし、一九五三年二月二十三日（昭和二十八年）市民病院で他界しています。七十五歳でした。一人息子豊道君にすべてを捧げつくした一生でして、「幸せ」の四字はどこにも見当たらない薄命の生涯でありました。当時の歴史の悲劇を背負わされた彼女の宿命は、涙なきをえません。

（註の文は、富永三雄先生が墓前祭用に下書きされていましたが、挨拶からは削除された項です。文責 松岡敏夫）

※横村浩についての問い合わせ先

平和資料館・草の家（高知市升形九十一）

電話 088・875・1275



横村浩の墓は高知市平和町にあります。

上町五丁目電停で下車し北に歩いて井口町のサンシャイン井口店の前を左に折れ約80m通りすぎると橋があります。橋には「横村浩の墓入り口」という小さな標札が見え、そこから350mほど北へ行くと、公園に案内板があり、これに沿って里山を少し上がると静かな茂みに囲まれて横村母子の墓があります。車の場合は上町四丁目を北に入り、山ノ端小高坂市民会館前を通過、宮ノ前児童公園にある案内板を見て下さい。又、中須賀（見元眼科前）を北に入り、最初の通りを東に折れて入ることもできます。